

事例

幼稚園・小学校・家庭・地域が一体となった食育の取組

～郷土の料理「ねったぼ」作りを通して～

みやこのじょうし いしやま
宮崎県都 城市立石山幼稚園

幼稚園における食育は、食べる喜びや楽しさを味わい、様々な活動を通して、食べ物への興味や関心を通じて自ら進んで食べようとする気持ちが育つようにすることが大切です。

石山幼稚園は、鹿児島県と隣接する都 城市にあります。周りには桜の名所である観音池公園や田園地帯があり、豊かな自然に囲まれています。昔から地域で子供を育てる気風が強く、幼稚園・小学校が併設され、地域との連携が密接な行事も多くあります。

石山幼稚園では、小学1年生から3年生までの児童とともに、5月からサツマイモを栽培します。畑の耕しから畝作り、マルチ張りまでは、保護者・地域の方々の協力を得て取り組み、その後、小学生と一緒に芋の苗植え、成長するまでの草取りや観察を行い、収穫をします。その収穫した芋を小学4年生から6年生までの児童が栽培した餅米と合わせて「ねったぼ」作りをします。「ねったぼ」は、ゆでた餅と蒸したサツマイモを合わせて作る芋餅の一種で、都 城市付近で食される郷土料理です。「すこやかフェスタ」と銘打って行われるこの活動は、小学生・保護者・地域の高齢者や食生活改善推進員の方々との多世代交流を通じた、食に関する大きな行事です。10個の石臼が用意され、幼稚園・小学校の縦割り班で伝統的な餅つきを体験します。

幼児は、餅をついたり、あんこを丸めて餅に入れたり、「ねったぼ」を作ることに夢中になって活動していました。途中、芋をふかした匂いに「いい匂い」と顔をほころばせたり、つき終わった「ねったぼ」を大きなしゃもじですくって食べてみて「おいしい」と歓声を上げたりしていました。自分たちで栽培した芋を使っの「ねったぼ」作りは、できあがった感動とともに食に関する興味・関心を高めることができています。このような取組を通じた地域の方々との交流により、周りの支えてくれる人に感謝する気持ちが育まれ、自然に囲まれた地域の良さを改めて認識できる活動となっています。

今後は、自分たちの手で栽培・収穫した芋を「ねったぼ」作りへとつなぐ活動を充実させ、小学校との密接な連携を生かしながら家庭や地域の方々との交流を図り、郷土に密着した幼児らの食に関する興味・関心を更に深めていきたいと思ひます。



芋の苗植えの様子



「ねったぼ」を味わう子供たち



高齢者の指導による「ねったぼ」作り